

令和元年度 第1回石狩市社会教育委員の会議 議事録

日 時 令和元年6月19日（水）午後3時00分～午後4時30分
会 場 石狩市公民館 第一研修室
出席者 木村委員長、大橋副委員長、船木委員、林委員、永田委員、二上委員、近藤委員、高橋委員、松本委員、長山委員、納谷委員
事務局 伊藤課長、斉藤主査（社会教育主事）、佐藤主査、遠藤主任、薩来主事
傍 聴 2人

（斉藤主査）

本日は、ご多忙の中、お集まりいただきありがとうございます。これより、令和元年度第1回石狩市社会教育委員の会議を開催させていただきます。はじめに、木村委員長より、ご挨拶をいただきたいと思います、宜しくお願いいたします。

（木村委員長）

皆さん、お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。先日6月14日に北海道市町村社会教育委員連絡協議会理事会があり、その前には東京で全国社会教育委員連絡協議会の総会、理事会がありました。社会教育委員は市町村合併があり、全国的に数が減っていて、都道府県がそれぞれ会費を負担して連絡協議会を運営しているのですが、今の財政状況ではとてもやっていけないので、都道府県負担を増やすということになりました。北海道は事務局もおいて運営しているし、活発な方です。社会教育委員の制度はとても大切なのですが、それをきちんと維持運営するのは難しくなっているという現実があります。後で報告しますが、石狩管内の協議会の総会もありまして、少し財政状況に余裕ができれば、社会教育委員だけではなくて、社会教育主事をはじめ職員の方たちと一緒に、これからの社会教育の在り方について、一緒に研修をするためにお金を使うという提案をしています。皆さんもそういう研修の機会に参加いただければと思います。今日は、皆さんにご苦勞をお願いする提案をしますので、よろしく議論をしていただきたいと思います。

（斉藤主査）

ありがとうございました。続きまして、本年4月の人事異動で、社会教育課に配属になった職員がおりますので、自己紹介をさせていただきます。

<異動職員自己紹介>

（斉藤主査）

これ以降の議事進行につきましては、木村委員長にお願いいたします。

(木村委員長)

最初の報告は、平成31年度石狩管内社会教育委員連絡協議会の総会についてです。4月10日に平成31年度石狩管内社会教育委員連絡協議会の総会がここ石狩市公民館で開催されました。石狩管内社会教育委員連絡協議会は、平成30年度31年度は石狩市が事務局を担当するということになっておりまして、来年4月まで石狩市が責任を持って開催するという形になっております。みなさんに総会の資料が渡っているかと思いますが、内容は前年度の事業報告、収支の決算報告、会計監査報告、活動方針、事業計画等となっています。今年の特に大きな事業は、7月8日～9日に第39回北海道市町村社会教育委員長等研修会が札幌のかでる2・7で開かれるのと、10月10日～11日に開かれる第59回北海道社会教育研究大会十勝大会の2つが大きな定型行事となっております。収支予算については、研修費を昨年は多く残しております。これは研修先が比較的近かったのと、参加者が少なかったこともあるので、もう少しお金を残さないで積極的に使おうということになっております。よろしいでしょうか？

それでは引き続き、協議の「令和元年度社会教育委員の取り組みについて」に移ろうと思います。教育プランが作られる際には、社会教育、生涯学習については、社会教育委員の意見を反映した教育プランにするということになっておりまして、進め方について事務局から説明を受けたいと思います。よろしくお願いします。

(斉藤主査)

<資料1に基づき説明>

(木村委員長)

どうもありがとうございました。それでは今の説明をうけて、社会教育委員の会議として、今後教育プランを作成するために、私たちがどのような作業をするかの提案です。2月の社会教育委員の会議の時に一度提案していたのですが、その際はほとんど取り組みを決めていないので、改めて提案をいたします。社会教育・生涯学習というものは、地域住民や市民が自由に自主的に学習するというのが中心で、行政はそれを支援するため、環境整備をするということが行政の役割となっています。そのために、地域住民の意見を反映させるためのしくみをもっています。社会教育制度は、公民館や公民館運営審議会を置くことができるということになっておりますし、図書館や博物館、美術館には図書館協議会や博物館協議会という住民の意見を反映させるしくみをもっています。社会教育の制度の大きな特徴は、社会教育委員、社会教育委員の会議は法律には書かれていないということです。ある意味、社会教育委員の役割とは、皆様おひとりおひとりの役割となっています。そうはいっても、社会教育委員同士で協力して話し合っていていくということが地域の生涯学習社会を進めていく上で有益だということなので、こういう会議をほとんどの市町村が持っているわけです。夕張はないのかもしれませんが。そのなかで、地域住民が自由に自主的な学びをするわけですから、何をどのように学ぶかについては、地域住民自身が決めるのがいい。だから、社会教育計画については社会教育委員が話し合うということになっています。特に石狩の場合は、社会教育計画とか生涯学習推進計画という名前の計画を社会教育委員が関わって作るということはないわけですが、かわりに教育プランに社会教育委員の意見を反映させるということになっています。これは私が社会教育委員になる前から石狩はこういう形をとってきたということになります。社会教育委員として教育プランをどういうふうに議論していくかという提案ですが、例えば学校ボランティアというのは、地域の高齢者の方たちが自分の体

験、例えば戦争のときはどうだったか、石狩川はどうだったか等を地域の子ども達へ話をすることや、登下校の見守りボランティアも高齢者の方たちが重要な役割を果たしています。高齢者の居場所等はもちろん高齢者の話ですし、文化・伝承・自然保護等も、市民活動が重要な役割を果たしているのですが、今は、市民活動も高齢者が中心となっているわけです。そこでわれわれとしては、今まで話し合ってきた枠組みを尊重しながら、まずは、高齢者の人達が石狩ではどのように活動しているのか、今、市民活動、市民の学びの場で高齢者の人達の役割にどのようなことを期待しているのか、どのような役割を果たしているのか等をわたしたちが聞いて、つまり社会教育や生涯学習の計画作りのためには、地域の人達が今何を考えてどのようなことをしたいのか聞いて、反映させるのが教育委員の役割だと思うので、そういう作業をやってみませんかというのが、前回の提案でした。

石狩市は子育て支援については市民が先頭に立って取り組んで、それを行政が応援する協働のしくみがあって、例えば「子育て支援ガイドブック」という、全国的にも誇れるだろう取り組みがあるので、子育てについてはあるのだから、高齢者の活動や地域の高齢者の力が求められていること等、例えば、札幌で働いていた人達が定年で退職になって、これから石狩の歴史、文化、自然環境を学んで地域のお手伝いをするのができないかと考えている人に、こんなことが石狩市ではできますよ、ということをお知らせするようなガイドブックを高齢者と一緒に働いている人達に聞きながら作ったらいいのではないかとという提案をしました。ガイドブック作りと教育プランへ社会教育委員としての意見を反映させるということを併せてやっていこうという提案です。すごく難しいと思うのですが、結びつける作業自体は社会教育委員の中でやるので、基本的にみなさんは、今回の会議の前に、前もってお配り渡している資料のとおりに進めたいと思っています。

わたしの提案でまず高齢者の生涯学習活動について調べることに、高齢者の市民活動について調べることに、高齢者の居場所について調べることに、それから高齢者の仕事、これは高齢者が活動していること、高齢者のためにしている仕事の両面があるわけですが、一応このような形に分けたのですが、みなさんが自分で行ってみたい、聞いてみたい人や場所があるなら、それを考えてきてくださいということと、自分がどのグループに所属したいかを考えてきてくださいということをお話したわけですが、みなさま考えてきてくれましたでしょうか？まだ、なかなか良く分からない、良く分からなくて決まっていない人はいますでしょうか？まだ何をやっていいか分からなくてグループ等を悩んでいる人はいますでしょうか？

(近藤委員)

今日初めて見たのでわからないのですが。

(木村委員長)

では、今日配ったプリントを読みながらもう一度説明しますがよろしいですか？

<説明：「ガイドブック作りの進め方について」(2019年6月19日)>

こういうようなことをお話ししながら地域の方たちにお会いして、例えばその方たちが大変だなと思っていることを解決できるようなことを反映させる教育プランにしたいということです。ど

んなグループや個人に話を聞くかについてですが、まず、グループのタイプとして、①のグループは高齢者自身が作っているグループですね。例えば、石狩市では高齢者クラブという、老人クラブ等がそうです。また、本当は高齢者だけではないのですけれども、実際には高齢者しかいないというようなグループもあります。②のグループは、いろんな世代が参加しているのですが、実際の中心は高齢者だというグループで、例えばいしかり市民カレッジなどがあります。③のグループは、もっとシニアに参加してもらいたい、活躍してもらいたいと考えているグループ。高齢者にもできる活動をしているので、たくさん的高齢者にかかわっていただきたいと思っているグループです。④のグループは、シニアを対象にしたボランティア活動、例えば、高齢者の福祉施設への訪問等は高齢者の人達も参加できるので、こういう活動に積極的にかかわっていただきたいというグループがあります。

次にグループの分野としてはどういうものがあるかですが、資料のとおり4つにわけてみました。①はシニアの生涯学習。高齢者の生涯学習。これはいしかり市民カレッジだとか、公民館活動、例えばそば打ち同好会、これは1度見学させていただいてびっくりしたのですが、多分北海道で1番頻繁に集まって活発に活動していらっしゃるのではないのでしょうか。しかも、そば打ち同好会は規約とかミッションで自分たちの学んだことを地域に貢献するということをうたっているのですよね。それで、参加している人達はお年寄りの方たちです。例えばこういうところでは、あと、教育行政ではありませんが、いしかり食と農のカレッジという取組があつて、例えば家庭菜園の作り方という講座にどれくらいお年寄りの方がいらっしゃっているのかというようなことも、すごく知りたいところです。②のシニアの市民活動は、例えばボランティア。これは社会教育施設や社会福祉施設のボランティア等があります。われわれと関わる場所では、図書館フロアボランティアだとか、図書館の読み聞かせの会、それから、砂丘の風資料館。あそこは、全国的にもとても貴重なサケ漁の遺構を保存している博物館ですけれども、あそこの案内をしているガイドの人達は、サケの遺構の発掘を手伝った女性の方たちとか、今はだいぶ高齢になっているのですが、そういう人達が中心となっていて行っているのですよね。そういう活動がありますし、社会福祉施設にもいろんな訪問するボランティアがあります。あるいはNPO法人、町内会、社会福祉協議会、自然環境保護団体、石狩市ボランティアセンターで高齢者は今、石狩市の中でどんなボランティア活動に全体として参加しているのか。もっと高齢者が参加してもらいようにしてもらいにはどんふうになっているのか。

3番目のグループで、シニアの居場所がある。石狩では通いの場といわれていて、ふれあいサロンとか、健康マージャンの会、札幌市でもいろいろな施設が、月末になると、500円ランチとかあつて、そこにいっぱい人が集まって、そこには、占いをする人とか、手品する人とか、ボランティアの人が集まっている。石狩市ではどうなのだろうか。

高齢者クラブというのがあります。もうひとつは、高齢者の労働ということです。今、実際に70歳くらいまで、多くの人が働いている。そういう中で、最初の仕事をリタイアした後に、どんな労働生活をしているのかというのを聞いたり、あるいは、もっと高齢者に関わってもらいたいという発想でどんなことがあるのか。これは、分野別の区分で、皆さんをグループ分けしたのですが、厚田区や浜益区の状況はどうなっているのかということも勘案しながら、厚田区や浜益区に行って、ヒアリングしていただく方もいいと思っています。

ここまで、ほとんど前回もそういう説明をしましたが、そういう作業もするということが可能ですか。本当は事務局の案では、グループ分けをして、グループごとに話し合ってくださいこ

とであったのですが、私は必ずしも今日できなくてもいいと思っています。グループ分けが難しい場合は、少なくとも私はここに行って話を聞きたいという意見をいただければと思います。まず、こういう風に進めるということと、ご自分がどういう風に関わるかということについて、ご意見を聞きたい。

(高橋委員)

話を聞きたいといっても、何を聞けばいいのか。

(木村委員長)

何を聞けばいいのか、今日のプリントの次のところに書いてあります。これも私の意見ですが、高橋委員ならいつも私よりもっといい意見を言うてくださるのですが、こんなことを聞きたいと言っていていただくといいのですが、どのような活動をしているかです。

どのような地域課題の解決を目指しているか、そのグループの会員の構成はどうなっているか、高齢者の占める位置や役割、例えばリーダーの交代がスムーズにいつているかどうか、メンバーの高齢化が進んでいて、新しいメンバーがなかなか参加しないということがないだろうか、それからその活動に通じて、メンバーの皆さんはどんな楽しみや生きがいを持っているだろうか。例えば、高齢者の方に楽しいから入ってくださいとか、こういう活動をしたいからぜひ入ってくださいというシニアに呼びかけたい。

5番目は、そのグループが活動をするためにどんな学びをしているか、どんな学びがあったか、その時、社会教育をはじめ、行政にどのような支援を受けたか、公民館などの公共施設を利用したか、活動を進める上で行政にはどんなことを期待するか、活動を進める上でどんな課題や困難を抱えているか。だいたいですね、私が仕事で関わってきたことで、市民活動で共通しているのは、リーダーの成り手がいない、同じ人が何十年も続け、後を継ぐ人がいない、メンバーの高齢化が進んでいるが、新しいメンバーがなかなか増えない、活動する会場の確保が難しい、活動資金が不足している、困ったときに相談に乗ってくれる窓口がない、行政とか社会福祉協議会とか、誰に相談したらいいのか、これは市民活動全般に共通している問題なのですが、もっと独自の課題があるかもしれません、自分たちの技術を高めたいとか、具体的なことがあるかもしれない。そして、活動場所、活動日、連絡先、これは当然、ガイドブックを見たとき、ここに行きたいと思ったとき、すぐに連絡できるように。

これを少なくとも15ケースを考えています。つまり、社会教育委員一人ひとつずつ、二人組で行く場合は2箇所行ってもらえばいいのではないのでしょうか。このことの調査をして、ヒアリング結果をまとめて、それぞれの訪問先を見開き2ページにまとめて、800字~1,200字くらいかな、あと写真だとか、それから会員がどれくらいいて、毎月第何曜日に開催しているとか、活動するためにはどれくらいの費用がいるとか、最初は電子版を作成する。印刷するには予算がかかるので、まずは、電子版を元に編集して、私が紙にして配布するのにふさわしい状態にして、出版できるようにしたい。編集は私が当然責任を持たなければなりませんが、もうひとりどなたかが編集をしていただければと思います。

最終的には、これまでの社会教育委員の活動を報告書にしたものを含めて出版したいと思っています。本屋さんにおいても売れる本にしたいと思っています。実は、社会教育委員の実践記録はあまりないのです。そうすると、社会教育委員の研修とか全国大会とか全道大会でも、入門的

な話をしてもらいたいという要望がかなり強いので、私は石狩市の社会教育委員はこういう活動をしていますという、そういう本を作れば、それなりに需要はあると思います。北海道教育大学でやっている社会教育主事講習だとか、大学の授業でも使えるともいます。

教育プランは、10月に行われる次の社会教育委員の会議までにまとめなければならないのです。例えば、ヒアリングは、8月いっぱいまでにやってもらい、8月から10月はじめくらいにかけて、それをまとめていただき、それを踏まえて、教育プランを10月の次の社会教育委員の会議に提案し議論していただきたい。ガイドブックの編集自体は、12月中に原稿はまとめて、今年度中に電子版を作りたいと考えています。いかがでしょうか。

(高橋委員)

なんか気持ちが乗らない。もし取り組むのだったら、団体がより元気になれるような、悩みが解決するような、お手伝いをするようなことがしたいのですが、実態をつかむだけですか。

(木村委員長)

当然、どんな課題をかかえているか、どんなことに困っているかを聞くので、そのヒアリングをしたときにそれに十分な回答はできないですが、それを社会教育委員の会議の中でみんなで話し合っ、て、こういう課題を解決するためにどんなことをしなければならないということはありません。

(高橋委員)

訪問しに行く場所は、多いほうがいいのでは。ひとつふたつかでは。

(木村委員長)

ボランティアだから、報酬をつけることができないので、なるべく負担を少なくしたいということです。

(納谷委員)

グループを作って、早く動きたいと、楽しみです。話を聞く中で気づくこともあるので、とりあえずは、動きだした方がいいかなと思いました。

(木村委員長)

皆さんから聞き取りしたい団体を出してもらってからグループ分けをしてもいいかと考えていました。

(永田委員)

ふれあいサロンに聞き取りをしようかと思っていたのですが、どのサロンに行くか決められないのではないのでしょうか。

(木村委員長)

ふれあいサロンの場合は、社会福祉協議会に行って、どこが活発に活動しているか。あるいは

これからの通いの場を発展させたいと考えたときに、どこがわれわれとして学ぶことができるか聞いて、一箇所か二箇所を選んでもらってという方法もあり、お願いするのは、私とか事務局でいいと思っています。

(永田委員)

ここって言っても、もしかしたらたくさん集中する可能性もあるかと思います。

(木村委員長)

ある程度調整しなければならいと思っていますが、15やろうと思っていてそれが大事で、バランスが崩れてもいいかと思っています。編集時に補うような感じです。

(納谷委員)

高齢者は会館に集まりますよね。会館ごとに聞こうかと思っていました。

(木村委員長)

会場から決めるという方法もあります。社会福祉協議会に聞きに行くのが一番いいのかと思います。助言を受けた上で聞いたほうがいいかと思います。

(船木委員)

私はアートウォームにしたいと思っています。

その場を使うのが、シニアだったり、子どもたちだったりしていいかと思いました。

シニア市民活動が中心だと思いますが、こだわってそこに集中してしまうと、削っていくと、広がりがなくなるので、共有しながらやろうかと思います。

(木村委員長)

あくまで、グループ分け自体は便宜的なものです。ひとつの活動だけということではありません。

(長山委員)

聞きに行くのは、午前中ですか。私はフルタイム勤務で、仕事があるので難しいです。

(木村委員長)

必ずしも昼ではなくても、夜の時間だったら出ることが、できればそれはそれでいいと思います。

(長山委員)

子どもいるいので、難しいかと思います。

(木村委員長)

どうしても行けない方は、議論の方で参加くださればと思います。

(永田委員)

4番のシニアの仕事はハローワークに聞くということでしょうか。斡旋している所か、登録している本人に聞くのかどちらでしょうか。

(木村委員長)

たぶん、ハローワークはどういう風に就職活動を手助けしているのか。どんな就職先があるのか。行政機関に、高齢者の仕事の状況についての統計類の整理とかがあるかと思います。私もわからないので、こういう書き方をしています。例えば、札幌の場合は、高齢者の共同組合があったりします。石狩ではどうか調べてみてだと思えます。ここはあんまり人がいなくても仕方ないかなと思います。

(林委員)

多くの組織とか団体は、公民館や各コミュニティセンターで活動していますので、例えば、そのような施設で昨年度使用した各組織のデータをもらうことは可能なのでしょうか。そこからピックアップするのは可能なのでしょうか。

(斉藤主査)

連絡先等の情報は提供してくれないと思います。

(伊藤課長)

社会教育関係団体の中で情報公開をしている団体だと分かりますが、各施設を使用している各団体の個別データまでは難しいと思います。

(木村委員長)

北コミでも、活発に活動している団体名だけなら聞いたらわかるかと思いますが、そこまですると、作業が膨大になるので、私は求めていません。

(木村委員長)

教育プランには詳細なデータがあるとよいと思いますが。

(林委員)

全部ではないですよ、われわれは、シニア団体のピックアップに、データに使いたいと思っただけです。

(大橋委員)

1回のヒアリングでは十分な情報を得られないかもしれません。そこで、7月中にヒアリングしたグループの内容を交流し、それを参考に、再度ヒアリングを計画してみるのはいかがでしょうか。

(木村委員長)

どこかのグループが一番最初に行ったところで、皆さんに紹介できるような会議があればいいと思います。7月26日から8月12日まで、文科省から北海道教育委員会が委託を受けて、社会教育主事講習があります。その中で、8月8日、9日に石狩市でヒアリングを行います。7月20日前後までに、皆さんが集まれる機会があればいいかと思っています。

(高橋委員)

たたき台としては、私の所属する高齢者クラブはすぐに出すことができます。

(松本委員)

私も高齢者の居場所を希望しています。画像のこともあったので、予めその団体に承諾を取っています。

【以下グループ分け作業】

①生涯学習：木村委員長、林委員、永田委員（担当：薩来）

②市民活動：船木委員、二上委員、大橋委員（担当：斉藤）

③居 場 所：高橋委員、松本委員、納谷委員（担当：佐藤）

④仕 事：近藤委員、長山委員（担当：伊藤）

(木村委員長)

市民の声を聞いて、それを社会教育計画に反映させることが大事だと思います。
次にその他の議題に入りたいと思います。事務局から何かありますか。

(斉藤主査)

特にありません。

(木村委員長)

それでは本日の議題は全て終わりましたので、全体を通して何かございますでしょうか。何もないければ、次回会議日程については、調整の上、ご連絡したいと思います。まず、7月16日の1時半に、市民活動の班が集まる機会がありますので、そこには都合のつく方やこの後どうしたらいいのか分からない方も来ていただければいいかと思っています。私としても、できるだけ、どういう取組が進んでいるのかということを皆さんに何らかの形で伝えていきたいと思っています。それでは、以上をもちまして、第1回の社会教育委員の会議を終了したいと思います。

議事録は上記のとおりであることを認めます。

令和元年 7月31日

石狩市社会教育委員の会議 委員長 木村 純